

【桑折町】 校務D X計画

桑折町においては、国のG I G Aスクール構想に基づき、令和2年度から町内全ての小・中学校で1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの構築、クラウドサービスの積極的活用など、急速に変化するデジタル社会に対応するI C T環境を整備し、子どもたちの発達段階に応じた情報活用能力の育成や探究的な学習活動の充実に努めてきた。

教職員においても、校務支援システムの導入による学齢簿・成績管理などの教務支援や勤怠管理の業務改善に向けた支援を実施した。

今後、「G I G Aスクール構想の下での公務の情報化に関する専門家会議提言」や「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえた上で、教職員の働き方改革の一環として、校務D Xに係る具体的な取組を次のとおり定める。

1. 次世代型校務支援システムの導入検討

桑折町においては、令和3年度より、プライベートクラウド上で運用する統合型校務支援システムを利用しているが、グループウェア・保護者連絡などの汎用クラウドツールと連携し、会議資料のペーパーレス化、教職員等の負担軽減、コミュニケーションの迅速化・活性化を可能とする環境を構築するため、学校現場における課題・ニーズを把握し、校務系ネットワーク・システム等の現状分析や望ましい校務のあり方に関する検討を行った上で、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムの早期導入を目指す。

2. F A X・押印の見直し

桑折町では、「学校と教育委員会間」「教職員間」「学校間」においてメールやクラウドストレージによる文書や資料等、データの授受を行っているが、慣例的に外部団体等との連絡にF A Xを使用しているケースがある。

また、押印については、「学校と教育委員会間」「学校と保護者間」等において、法令等で押印が必要とされている文書以外にも押印を行っている場合がある。

ペーパーレス化や教職員等の負担軽減のために、既存の校務系ネットワークやクラウドサービスの活用を促進するとともに、文部科学省通知『「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告について』に基づき、F A X・押印の見直しを周知徹底する。

3. 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

桑折町で導入している校務支援システムは、児童生徒の名簿等の情報入力を手作業で行うことも可能であるが、CSV形式で作成した個人情報ファイルを取り込んで登録するなど、作業フローの確認点検を行うとともに、「データが原本」の考え方を基にし、紙媒体での提出を極力求めないこととする。

また、校務系で取り扱う名簿情報と学習系で取り扱う名簿情報を同期するなど、異なるシステムでも名簿情報を共有できる環境を構築するなど、データ連携方法に係る見直しを行う。

4. 校務における生成AIの活用

生成AIは授業計画や教育方針等の資料作成支援のほか、教職員向けの研修資料作成、児童生徒の提出物やテスト結果に基づくフィードバックの自動生成等、様々な場面での活用により、教職員の負担軽減が期待されるが、町内小・中学校では積極的な導入が進んでいないことから、県の利活用の方針を確認・検証した上で、文部科学省が示す「初等中等教育段階における生成AIの利用に関するガイドライン」を順守し、利活用に向けた取り組みを進める。